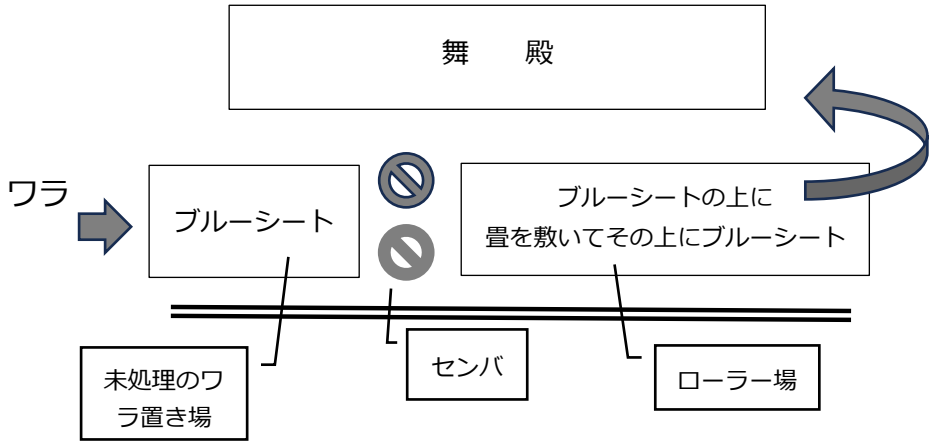
8日9時～11時半
出席者：成清、中田（猛）、末國（富）末國（征）、末國（栄）、中田（真）、
杉本、竹本、吉崎、坊田、松本
説明者：末国（栄）

R6 年 9 月 8 日打合せ

令和 6 年秋季例大祭　注連縄作りの作業内容と分担

1．注連縄用ワラのほぐし作業

総担当	末国栄之助		
日時	R6 年 9 月 15 日（日）午前 8 時～		
場所	志賀神社　舞殿の前広場		
参加者	大坪常会（本当屋）全員　　飲み物用意（担当：　　）		
道具類	名　称	準備担当	備考
	ワラ運搬用軽トラ（2 台）	成清、末国（富）	補助者：松本、木本
	千歯・センバ（2 台）	末國（栄）	
	1 トンローラー、ユニック車	坊田	
	タライ（2 個）	末國（富）	
	~~押切り~~ ブルーシート		神社保管の物を使用
	一輪車（2 台）	末國（富）1 台	
作業順	1．集合した後、 ・軽トラ 2 台（4 名）でワラを取りに行く。14日（土）16時に変更する。 ・残った者は、末国（栄）より作業内容を説明し、 ・ブルーシート、センバ、畳などを設置 2．ワラをセンバに掛け、タライで根元をそろえてローラー場に並べる。 3．ローラー場にワラが並んだらローラー掛け（往復 2 回） 4．ワラを舞殿のブルーシート上に並べていく。 5．２～４を繰り返す。 6．終わったら、ワラをブルーシートで被い、作業後を清掃する。 7．ワラを保管していた駅組倉庫の掃除		



その他
・仕上がった藁を束ねるPPロープを集会所から持参する。
・左縄を試しに綯ってみる。それ用に手水（霧吹き）も用意する。

２．注連縄ない作業

総担当	末国栄之助		
日時	R6 年 9 月 22 日（日）午前 8 時～		
場所	志賀神社　舞殿の前広場		
参加者	中の村当屋　全員　　飲み物用意（担当：成清　60本を集会所冷蔵庫で保管して持参する。		
お祓い	作業終了後に~~全員~~常会員 御供え（清酒 ~~2 升~~、イリコ）２合瓶で良い。		
準備物	注連縄（機械縄）150m、~~祓い殿注連縄（手縄）26m~~ 手で綯った縄は使わない。		
道具類	名　称	準備担当	備考
	毛切りハサミ、カマ	各自	
	押切り（2 台）	水除、末国（富）	
	脚立（3m 級、1 脚）	坊田	
	巻尺（50m、5m 各 1）	末国（栄）	
	ロープ（大注連縄用）	坊田	
	PP ロープ（1 巻）		在庫の物を使う。
	荷札（30 枚程度）、ゴミ袋、マジックペン 協力を確認した。	末国（栄）	
師匠	注連縄作り：貢 通総　　房作り：末国征男		
作業順	１．本当屋役員は 7 時半からブルーシート敷などの準備 ２．8 時に当屋要員が集合した後、挨拶と作業の説明 ３．大注連縄は、舞殿で 1 組（1 組 6～7 名）が師匠の指導下で作る。 ４．小注連縄は、舞殿前広場で場所別の長さに切り荷札を付ける。 （取付け場所、長さ、本数を記した荷札を必要数だけ用意） ５．完成した注連縄の毛切り ６．完成した注連縄を祓い殿にて保管する。 ７．全員でお祓いを受ける。		

４，６，７は大坪常会だけで実施することにした。

参考１：　注連縄の種類と本数

［大注連縄］

	設置場所		長さ	青竹切 （4 本）	鈴 （計 14 個）	御幣
大注連縄	祓い殿	内部	3.5m(毛切り)	無	無	○
	祓い殿	入口	6.0m(毛切り)	無	総 3 個	○
	白鳥神社	入口	4.0m(毛切り)	4.0m	総 2 個	○
	鳥居	門柱(石)	5.0m	5.0m	総 3 個	○
	鳥居	木作	5.0m	5.0m	総 3 個	○
	鳥居	祭礼原	5.5m	5.5m	総 3 個	○
	青竹は真竹を使って取り付けること					
5mm縄	鈴用 1 m左縄		14×3＝42 本			
	端結び用		2（両端）×6 本分＝12 本　計 54 本			

1（片方だけ）　6　48

［小注連縄］

場所	長さ	本数	青竹	場所	長さ	本数	青竹
祓い殿	26m	1		踏切前	5m	1	
神輿倉	8m	1		駅舎前	6m	1	
若宮社	6m	1		大船橋	3.5m	2	4
湯沸し場	8m	1	4	落合橋	3.5m	2	4
白鳥社	5m	1		金の御幣(集会所)	6m	2	2
舞殿前	8m	1		金の御幣(中)	6m		
杉の木	3.5m	2		神輿置き場	15m	1	4
杉の木間	5m	1		祭礼原出口	6m	1	2
ガヤの木	3.5m	2		御幣櫃	4m	1	
山伏墓	1.5m	1	2				
相撲取り墓	1.5m	1	2	計		24	24

参考２：注連縄の取付け場所

志賀神社境内図に記載

参考３：紙垂について

必要数はすべて宮司が作成し、幟立て時に併せて小注連縄に取り付ける。

紙垂の取付は、巻き取ると破れるので注連縄を張った後が望ましい。